

## 平成16年度 第4回（平成16年10月5日）図書館運営協議会 会議要旨

### 1. 出席者

運営協議会委員委員（8名）

小杉山会長・中多副会長・矢口委員・加藤委員・奥津委員・埜崎委員・日高委員・山本委員

図書館側委員（4名）

鹿島中央図書館長・広田奉仕係長・坂井視聴覚係長・林田戸山図書館長

図書館事務局

佐藤管理係長・秋山管理係主査・東主任主事

### 2. 場所 中町図書館

### 3. 開会

#### 【小杉山会長】

ただいまから平成16年度第4回図書館運営協議会を開催いたします。本日の議題は、協議事項2件です。はじめに、「IT（情報技術）を利用したサービス」について、事務局から説明をお願いします。

#### 【秋山管理係主査】

平成12年11月28日生涯学習審議会答申「新しい情報通信技術を活用した生涯学習の推進方策について」要旨説明。

#### 【広田委員】

新宿区立図書館のホームページ及びインターネット予約について概要説明。インターネット予約は6月22日に開始され、約3ヶ月が経過しました。直近の1ヶ月では、対前年比約2.1倍に増加しています。予約件数全体の68%がインターネット予約です。配本は早ければ、その日の朝に予約したものがその日のうちに受取館に行くこともあります。

#### 【奥津委員】

インターネット予約における子どもの利用率はどうか。

**【広田委員】**

中学生以下の予約件数は、平成16年8月で見ると予約件数全体の約1割です。インターネット予約では5.6%です。モバイル（携帯電話）からの予約は少ない状況です。

**【鹿島委員】**

子どもホームページが7月27日に開設されました。ITを活用して、新宿区の図書館でこれからどういうことができるのか議論をお願いいたします。

**【矢口委員】**

7月までの実績を見ると20代～40代の方はカウンターに比べてWeb予約が増えています。OPACの利用は、職員が利用を促せば利用は増えていくのでは。

**【広田委員】**

予約票を持ってきた人については、そのまま紙で受け付けていますが、OPACの利用を促すような利用方法の説明も行っています。

**【中多副会長】**

OPACを使う時は、特定の調べ物を調べる時に使います。図書館の本棚を眺めながら調べる方が楽しい。図書館でインターネット、パソコンを利用できるサービスの提供が必要ではないか。都立中央図書館では2台程度提供し、一人30分以内で利用してもらっています。大正大学図書館では、外部のデータベースで新聞の全文検索ができます。自分の図書館だけのデータベースもあります。こういう方向も検討してはどうか。

**【広田委員】**

有料データベース（聞蔵やヨミダス等新聞記事が検索できるもの）への接続について、検討しています。

**【中多副会長】**

区民のコンセンサスも必要ですが、経費負担の問題もあります。

**【小杉山会長】**

産業経済関係の開発、IT関連、インターネットでこれだけの人が利用しているのに、プライバシーの保護は大丈夫ですか。

**【広田委員】**

情報セキュリティはしっかり行っています。

**【鹿島委員】**

外部からの侵入に対しては2つの壁(ファイアウォール)で防御しています。図書資料関係のサーバーと個人情報のサーバーがあります。インターネットホームページから、サーバー内には侵入できない仕組みになっています。

**【小杉山会長】**

退職した人や異動した人が情報を流さないように。

**【鹿島委員】**

インターネット予約に先立ちまして、新宿区の個人情報審議会で審議していただき、インターネット予約システム導入の承認を得ています。

**【中多副会長】**

図書館で新しい技術を取り込むと新しい職員の仕事が出てきます。短期間で的確に職員が仕事を覚えられるような体制作りが必要です。

**【広田委員】**

新任職員研修、レファレンス研修を各館で経験の浅い人を対象に行っています。都立図書館での研修やIT研修にも職員を派遣しています。日曜日の午後4時から6時までの混雑時には、カウンターにレファレンス専用の窓口を設けています。

**【埜崎委員】**

研修を一生懸命やっているのはわかりますが、公務員なので異動が多い。せっかく力がついたので残念です。図書館利用者にとっても残念です。

**【鹿島委員】**

区立図書館の職員は、区の職員として多様な職場に行きます。例えば税務や街づくりでも専門性が必要ですが、専門性に強くこだわると人事異動ができなくなります。23区では、平成7年までは司書枠での採用がありました。現在新宿区の図書館では職員の38%が司書です。区の人事異動は4年が基本ですが、図書館職員の在職年数は平均4.8年ですので、他の職場より長くなっています。

また、図書館の特殊性は配慮し、ベテラン職員も残しています。今後、子どもホームページのメンテナンスもやっていきたい。有料データベースの整備や新聞情報のCD-ROM化も検討が必要です。

**【小杉山会長】**

ITの積極的な活用は良いが、いろいろ問題もあるので注意が必要です。次に「障害者サービスについて」協議を行います。事務局から説明をお願いします。

**【林田委員】**

区立図書館の障害者サービス（視覚障害者サービス・家庭配本サービス）について説明。

**【埜崎委員】**

テープ貸出は、視覚障害者に限るとのことですが、高齢で活字が読みにくい人は利用できませんか。

**【林田委員】**

録音図書は著作権者の許諾が必要です。視覚障害者に限定して使用する条件で認められるものであり、一般の方には拡大できません。

**【奥津委員】**

点字図書館に行ったことがありますか、点字図書館との交流はありますか。

**【林田委員】**

貸出しているテープ（録音図書）はすべて自館製作のものではありません。点字図書館をはじめ全国の図書館とテープの相互貸借を行っています。

**【中多副会長】**

著作権者の許諾が必要ですが、断る人はどのくらいですか。

**【林田委員】**

作家にはっきり断られたことはありません。しかし、著作権者が作家でない場合もあり、書類のやり取りで時間がかかるケースが多い。

**【佐藤管理係長】**

著作権はクリアしてもタイムラグが生じてしまうことがあります。

**【中多副会長】**

日本点字図書館は社会福祉法に基づく施設なので著作権上の処理がいない。横浜市や大阪市でも図書館とは別に社会福祉法に基づく音訳サービスがあると聞いています。

**【佐藤管理係長】**

受け手に納得してもらっただけの音読の技術向上が必要です。

**【埜崎委員】**

2日間の読み聞かせの講習を受けたくらいでは無理ですか。

**【佐藤管理係長】**

やる気のある方をセレクトして育てていくのが戸山のボランティアグループの考え方です。今年度、図書館サポーターの方を対象に昼と夜で4回の「読み聞かせ講習会」を考えています。

**【中多副会長】**

高齢者で読み聞かせを希望する人に対しては、どのように考えていますか。

**【佐藤管理係長】**

幼児から小学生までを対象にまず実施します。

**【鹿島委員】**

録音図書は、公共図書館がテープで利用者に提供するので、音訳ボランティアが録音したテープの内容について職員が誤読等のチェックをしっかり行っています。

**【中多副会長】**

新宿区の場合、司書の割合は40%に近く23区平均よりは高いが、全国平均では49%です。

**【鹿島委員】**

「区立図書館サービスの基本的なあり方（中間のまとめ）」をホームページに出しましたが、23区の図書館では読んでいると聞いています。10月末に全

国図書館大会で「新宿区子ども読書活動推進計画」を発表します。子ども読書活動推進計画は100自治体程度が策定済みですが、当区形態によるメリット・デメリットを明確にし、専門性と図書館の自由、個人情報保護などを確保する体制も重要です。また、数値目標を掲げた「計画」は新宿区だけのようです。委託については、経費の節減を考えて、今後の管理運営形態の選択肢の一つです。しかし、安いからいいだろうだけでは駄目です。

**【小杉山会長】**

社会教育委員としてはいかがですか。

**【加藤委員】**

社会教育会館が民間委託になって単なる場所貸しになっています。これでは地域センターと変わらないではないか。

**【鹿島委員】**

高齢者サービスについては7月27日開催の第2回運営協議会で協議いたしました。配本サービスについては対象を拡大し、高齢で来館困難な方も対象としています。

**【小杉山会長】**

第4回図書館運営協議会を閉会します。本日は、中町図書館と鶴巻図書館の視察を行います。